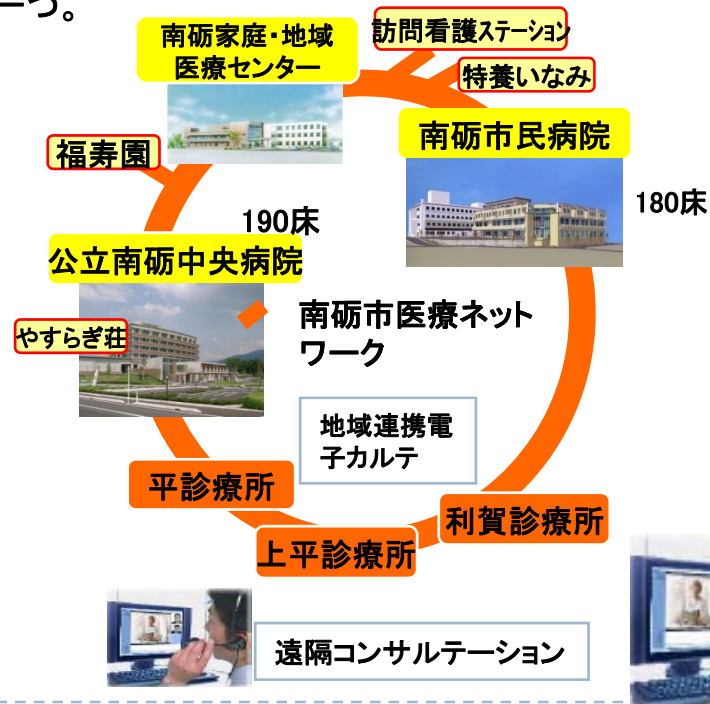


8 地域連携電子カルテによる施設支援

- ▶ 内容・方法
 - ▶ 市辺縁部の3診療所診療科以外の患者の診療について、市中央の病院が支援する。
 - ▶ 患者情報は地域連携電子カルテで共用して、遠隔カンファレンスを行う。
- ▶ 実施状況
 - ▶ 各病院、診療所が100~500件の患者情報検索(2009年春にスタート)
- ▶ 実施地域と実施者
 - ▶ 石川県南砺市病院局
 - ▶ 総務省地域ICT利活用遠隔医療等モデル事業の一つ。
- ▶ 必要設備とコスト
 - ▶ 地域連携電子カルテ



9 眼科遠隔医療

- ▶ 内容・方法
 - ▶ 相談側施設の眼底写真撮影装置から送り出した画像を、専門医側の施設で読影して、診断結果を伝える。
- ▶ 実施者
 - ▶ 旭川医科大学等
- ▶ 診療報酬
 - ▶ 精密眼底検査、眼底カメラ撮影、細隙燈顕微鏡検査、汎網膜硝子体検査の際に、遠隔医療での請求を認める。
- ▶ その他
 - ▶ さらに進んだ装置では、遠隔からの操作(手術)も可能



撮影装置
(依頼側施設)



ブロードバンド回線



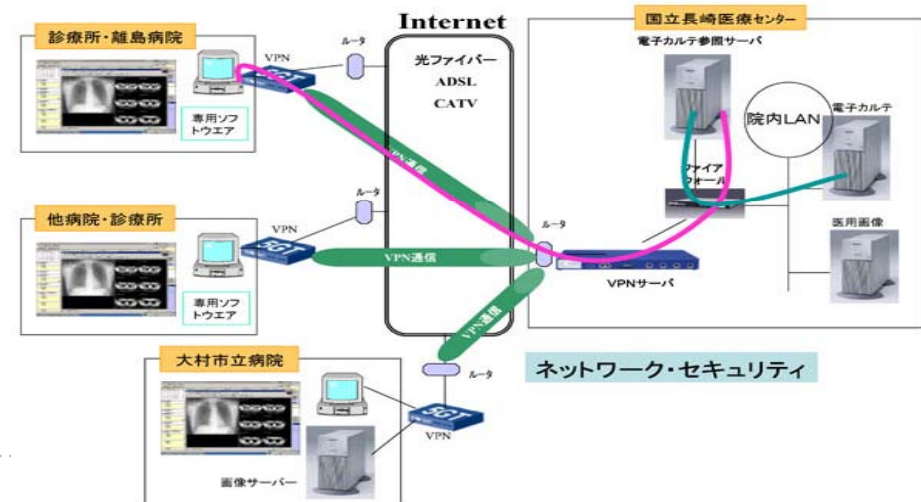
観察装置と眼底画像
(専門医側施設)



手術用装置

10 遠隔放射線画像診断(テレラジオロジー)

- ▶ 内容・方法
 - ▶ 僻地・離島診療所と中核病院をブロードバンド・インターネットで接続する。
 - ▶ 僻地・離島診療所でCT、CRで撮影した画像を中核病院に送り、診断や支援を受ける。
- ▶ 実施地域、実施者、対象者
 - ▶ NPO法人あじさいネットワーク(国立病院機構長崎医療センター、市立大村市民病院他多数)
- ▶ 必要設備とコスト
 - ▶ ブロードバンド回線
 - ▶ 通信装置
- ▶ 効果
 - ▶ このネットワークは放射線画像診断専用ではないが、多くの案件は画像診断である。
 - ▶ 専門外の部位でも、しっかりした診断ができる。
- ▶ 注記
 - ▶ 他にも多数の地域や施設で遠隔放射線画像診断が実施されている。



1.1 遠隔術中迅速病理診断(テレパソロジー)

▶ 内容・方法

- ▶ 病理医がない病院での悪性腫瘍手術中に、切除した組織の顕微鏡画像を、病理医がいる病院に伝送し、断端部へのがん細胞の残存の有無を診断する。
- ▶ リアルタイムで行う。

▶ 実施者

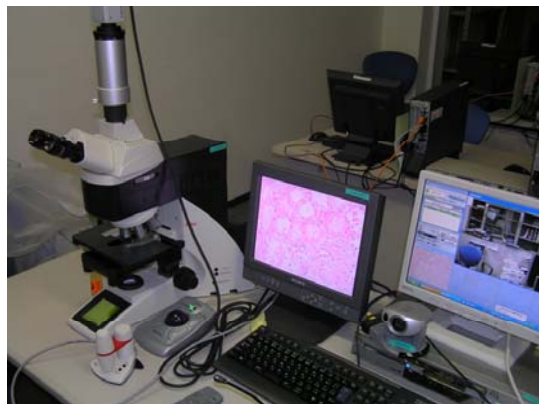
- ▶ 東北大学病院病理部、岩手医科大学病理学第一講座他多数の大学や病院で実施

▶ 効果、成果

- ▶ 病理医がない病院でも、悪性腫瘍手術を実施可能となった。
- ▶ 東北大学病院や岩手県立中央病院では年間100件ほどの実施実績あり。

▶ 診療報酬

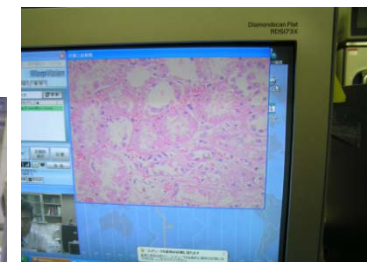
- ▶ 術中迅速病理診断標本作製料 1900点(施設設置基準を満たした場合、遠隔医療に適用可能)



顕微鏡、モニタ、通信用パソコン



観察施設側装置



観察用モニター